

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かでたくましい子	話そう 聞こう 伝えてみよう	①思いついたことや、気づいたことを試したり、工夫したりしてやってみる	・生活や遊びの中で、“なぜ”“どうして”が増え、保育者と一緒に“なんだろうね”と考え、共感する事で「～してみよう」「やってみよう」と自ら行動する姿ができた ・廃材や様々な素材を利用し、作りたい物を形にしていくながら増えてきた。○○がないなら作ればいい！と発想も広がり、主体的に遊びに向かうようになっていった	A	A	・生活発表会では、年中児2人が昨年度よりも大きな声で堂々と話せていて、経験が積み重なっていると感じた。なわとびや鉄棒も運動会を通し、コツコツの成果が出ていた ・日頃の練習の成果を十分に発揮できた子、大勢の観客の前で緊張したお子さんもいた年中組の2人はお兄さん、お姉さんらしく頑張っていた ・発表会で、合唱団が加わったことで、観客も増えたが、子どもたちは臆することなく発表ができ、素晴らしい声が出た ・運動会では、欠席者がいた為1人になってしまったが、堂々と取り組む姿が見られた ・保育者が子どもの声や思いを受け入れてくれ、やりたい事を経験させてくれるのは有難い ・保育者が、子どものチャレンジに共感しながらも、手を出しすぎず、待っている ・指標の中に相手の思いも受け入れるとありますが、この年代の子どもたちには難しく、ちょっとハードルが高いのではないかと感じる ・まだ相手の思いを受け入れることを目指さなくても良いのではないか。（統合先）小学校では、清沢小から来た児童は優しく受け入れてもらう子が多い。もっと強い思いを持っていいと感じる時もある。相手の思いを受け入れるのは、年齢を重ねていけば出来るようになると思う ・他園との交流も通して、同年代と関わる経験は小さい時から沢山したほうが良い。様々な場面で色々な子がいるなど知る経験も大事	①・子どもの遊びの様子や言葉を見聞きし、“やってみよう”“遊んでみたい”と思ったら、すぐに考え、工夫し、選べるように、素材や用具の種類、大きさ、場所等、環境の再構成をしていく。子どもの思いを深読みしたり、保育者の意図に方向付けないよう意識していく ・子どもの気づきや思いに目線を合わせ、共感しながらも手出しすぎ、声のかけすぎに留意し“待つ”“見守る”をしていく（待ちすぎだと思ふ位でもいい） ②・意図を明確にした交流活動を実施し、様々な同世代の子どもと関わる機会を作っていく。Face Timeも活用し、長いスパンで継続して繋がる機会を作る ・子どもからの発信を受け止めるとともに、思いを伝える場面では待つ時間も大切にしていく。朝の会等を通し、発言する事に慣れる機会を作る ・その場の状況や子どもの育ちも意識し、色々な思いがあるという事も知らせていく。相手の気持ちを受け入れる事をねらいとしない関わり方をしていく ③・できるようになった事や新たに挑戦しようとする姿を見取り、経過や成功が見える形で表示する。また、過程を把握していく中で、助言や励まし、見守るなど、状況に応じた関わりを見極め、達成感、充実感に繋げていく
		②思いを自分なりの言葉や行動で伝えたり、相手の思いを聞き、気付いたり、受け入れたりしながら遊びを進める	・相手の思いに気付いたり、受け入れたりがまだまだ難しい。少人数ということもあり、状況に応じて保育者が間に入りながら、遊びを進めている ・皆の前で話す経験を積み重ねる中で、時間がかかっても自分の思いを伝えるようにする姿も出てきている ・保育者が見守り、状況を見て必要な援助するよう意識するものの、待ちきれずに声掛けしてしまう事もまだまだある	B	A		
		③やりたい事を見つけ、あきらめずに繰り返し挑戦し、満足感、達成感が感じられるようになる	・日々の様々な経験や遊びから何事にもチャレンジする姿が増えてきた。“コツコツと少しづつ”が定着しつつある（年中） ・縄跳び、鉄棒、うんてい、生活発表会等、出来るようになりたいという気持ちが強くなり、毎日繰り返し挑戦する姿が増え、できた経験が達成感となり、自信に繋がっていった	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	④一人ひとりの今の発達や育ちを職員間で確認しながら、今、つけていきたい力を共有し、豊かな育ちにつながる援助、保育をする	・子どもたちの姿を日常的に伝え合い、個々の発達や育ちの違いに配慮し、職員間で確認しながら援助している。また、日々の振り返りを行い、共通理解し、個々への配慮や対応を一貫して行った ・子どもたちが多様な体験を通して感性が豊かになるよう意識し、興味ある物や季節の行事等、タイムリーに経験できる機会も作り、個々の視野が広がっていった	A	A	・少人数ですが、一人ひとりの発達を見ながら適切な保育をしていく大切さと大変さを感じた ・子どもの話を日常的に伝え合える風土ができているのはとても良いと思います。（評議員さんの職場でも）雑談をしているようでも、仕事の中の良い会話が生まれ、賑やかで職場が明るくなる ・各家庭は異なるが、園だからこそ同じようにやることを大切にしている ・あゆっこ（おしゃべりサロン）でも季節に合わせた行事を行い、クリスマス会ではサンタは見えないけど鈴を音を流し、みんなで探しに行く演出は良いと思う。ただ子どもの人数が少ないので、今後が心配 ・年中、2歳児の2クラスですが、年齢や月齢に合わせてよく見ている ・園外保育など、自然と触れ合う機会を多く取り入れていて良い ・園外をよく散策している姿を見る。近場でも何度歩いても新しい発見があるので良い ・清沢ならではの体験を通して、心が育っているなど感じる（清沢マップ、フレームの活用） ・園での経験が、家庭でも活かされている。地震速報のニュースを見て「テーブルの下に隠れて」と言ったり、道路を渡る時には、左右を確認するようになった ・食は大切。食を通して、家庭や地域とも繋がっているのは素晴らしいと思う。少人数だからこそ大切にできる事ではないか ・職員間の情報共有の中で、分掌の役割は責任を持ってやっているが、伝わったつもりになっていて共有しきれていなかったとの事だが、「今、何言ったか聞いている？」という確認も必要ではないか ・職員が少ない中で工夫した環境設定が素敵だと思う。環境を重視することは大切 ・小学校との連携、交流は積極的に行うと良い。小学校側としてはいつでも来てくれて構わない ・中薬科小のグランド見学なども出来たらよいのではないか。自分の行く小学校を見る、知ることはとても良い経験になる ・来年度、地域に住む皆さんから、地域の伝承や自然などの話を聞く機会を作りたいとの事でしたが、相談してくれれば人材については協力する ・生活発表会での清沢合唱団の出演はとても良かった。また、毎年、手作りカレンダーをいただくが、「清沢里の駅」に来店してくれるお客様にもとても人気があり、続けて頂けたら嬉しい ・コードモンを使って、日々のコミュニケーションやおたよりの配信になったが、父親もアプリを登録して、毎日確認するようにになった。内容を見ながら、子どもと園の出来事の会話をする姿も増えた	・一人ひとりの今の育ち、育とうとする姿を見極めていく。個々に合わせた発達に見通しを持ち、職員間で共有、共通理解をして同じ関わりをしていく ・個々の育ちに、固定観念を持ちすぎず、新しい目で見えることも意識していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	⑤1人1人の気持ちを温かく受け止め、個々の生活リズムや発達を配慮しながら保育を行う	・各家庭の様子や事情を共有し、個々に合わせた援助の仕方など共通理解し、園で、園では、日々安定したリズムで生活できている ・年齢による発達や育ちを確認し、生活習慣、生活リズムの定着を図るよう個々に合わせた援助を行っていた	B	A		・家庭環境を理解、受け入れ、園生活が安定して過ごせるよう、個々の生活リズムに配慮していく ・一人ひとりの発達や家庭での様子、事情を把握し、声かけや援助を丁寧に行い、安心して過ごせるように配慮していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	⑥身近な自然環境や地域の様子を保育に効果的に取り入れ主体的にかかわり豊かな体験に繋げる（清沢マップ・地域探検）	・地域を知る中で、フレームを使って、子ども目線の気づきを大切にすることで、新たな発見がいっぱいのMAP作りができた。 ・週に1度の散歩が定着し、体力もつき、子ども目線から清沢を探索したり、自然を取り入れ、自分から遊びたくなるような環境作りができた ・子どもと保育者共に、清沢について知り、自然を見たり、触れたりすることで、新たな発見や視点に繋がりと、愛着が深まっていった。 ・この先はどうなっているのか？などの疑問に実際に現場に行く経験を重ね、探求心が広がっていった	A	A		・園児4名全員が幼児となり、活動の幅も広がるので、地域への愛着が深まる事も意識しながら、発達や目的を明確にし、散歩の距離や体験を計画していく ・子どもたちが感じた不思議や発見に共感し、探検心や探求心を子ども目線で、保育者も共に体験していく ・地域の自然、伝承など、自分たちで見たり、調べたりする
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	⑦安心安全なこども園になるようにヒヤリハットの共有・あらゆる状況を想定した訓練を重ね、子ども、職員の安全意識を高める	・地域性も踏まえ、実際に防災（減災）目線で近隣の危険箇所を確認したり、地震車体験や防災研修から、訓練、避難方法の改善ができた。子どもたちも避難の仕方、身の守り方について意識が変わっていった ・園外保育に出た際、子どもたちが交通ルールを守る経験の少なさを感じた。頭の中だけでなく、実生活で生かせるよう経験が必須だと感じる ・些細な事でもケガや危険に繋がるといふ危機管理意識に職員の個人差がある。日常生活でのヒヤリ、ハットに気づけるような取り組みを次年度に繋げていく	B	A		・毎月ヒヤリハット記録の提出（ヒヤリハットを見つけたら、危険察知、見通す） ・防災・減災に意識を変え、既存の訓練計画、避難方法、避難場所など見直しを行う。地域等の状況に合わせたものに改善する ・園のある地域で起こる災害、被災状況や様々な場所、時間、状況を想定した訓練計画を作成、実施する。子どもたちにも自分の命を自分で守るという事を、意識づけていく ・意識的に交通ルールを知らせ、経験する機会を目的とした園外保育を計画していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	⑧基本的生活習慣が身につく、健康で楽しいこども園生活が送れるようになる。また、食育活動を通して、子どもの食への関心が広がる	・個々に合わせ、生活習慣が身につくよう援助していく事で、それぞれの学年にあった事ができるようにできている ・食育の会で様々な食文化を知り、体験もする中で、興味関心にも繋がっていった ・食育のドキュメンテーションが、親子で食育活動の話題にもなり、園と家庭を繋ぐコミュニケーションツールになっている	B	A		・食育のテーマによって園児全体、学年ごとで行う食育活動も取り入れていく ・地域の方に協力して頂き、栽培とッキングを食育計画に反映させていく（たけのこ、じゃがいも、さつまいも、びざり作り等） 食育活動を通して、親子で話題にでき、園と家庭を繋ぐコミュニケーションツールになるように工夫をして、発信していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	⑨個々の発達を職員間で共有し、理解しながら、一人一人に合った丁寧な関わりを行う	・個々の発達や今の状況や関わりや援助についてその都度話し合い、職員間で共有し、一貫した対応ができた ・外部講師が来園し、個々の育ちについて発達の抑えをしながら学ぶことができた、子ども一人ひとりへの丁寧な関わり、援助にも繋げることができた	A	A		・一人ひとりの発達や育とうとする姿を抑えその時に必要な援助をしていく。また、可能ならば、外部講師に引き続き来園してもらい、保育者が学ぶ機会を作っていく（子どもの見方、保育者も広い視野で子どもの育ちを抑える）
5 組織運営	(1)組織体制の充実	⑩園運営に対して職員間で情報を共有、共通理解し、PDCAサイクルを基盤に重点目標実現に向け、子どもの育ちを援助していく	・重点目標や研修テーマを軸にした園内研修の中で、子どもの育ちや職員の関わり方、環境設定について等、関連に話し合いがもたれ、PDCAサイクルを基に進められている ・子どもの姿や育ち、日々の伝達事項の情報共有はできていたが、行事等の準備は、「伝えたつもり」「伝わったか」という一方の理解解もあつた。職員個々の分掌量も多い中での周知が課題である	B	A		・職員全員が参加できる職場環境を生かし、自分で聞いて理解し、意見を話し合える園内研修、職員会議を続けていく ・個人の分掌量が多く、並行して進めていく為、会議以外での伝達が不十分だったという現状を踏まえ、伝えただけでなく、理解しているかまでを担当者は責任をもって行う。また、全職員が自分事として捉えて関わっていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	⑪月2回の研修日を設け目的を明確にした研修時間を確保し、質の高い保育の実現に繋げる	・園内研修では、年間計画をもとに事前に内容を把握し、職員全員が意見を出しあい、保育の振り返りや、個々の対応について共有ができた ・研修テーマや手立てについて、学年・個々の発達や育ちを抑え、振り返りを行い、課題、改善を行った。また、子どもの興味関心を探り、視点がぶれないよう確認しながら、園内研修を進めていくことができた	A	A		・日々、週、月で、子どもの姿、遊びの広がり、経過に研修テーマと手立てを照らし合わせ、振り返りを行い、課題を周知し、改善していく ・全職員が保育に関わるので、経験年数や会計年度保育教諭、補助に向け、研修内容等の説明が必要に応じ、研修主任が事前に行う（よりスムーズに研修が進むようにしていく） ・今年度何度も振り返りの中で上がった“保育者の先走り、手を出しすぎ”について会議で確認し合い自分の保育に落とし込んでいく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	⑫日々の子どもの姿を見取り、子どものやりたい遊びとすぐに結びつくような環境づくりと再構成の実現環境に特化した園内研修実施（月1回）	・環境に特化した研修をする中で、職員一人ひとりの意識も変わり、「こうしたらどうか」「ここに○○を置いてみようか」など子どもの遊びの姿からその先を見通し、意図を明確にしていた ・環境ボードを取り入れた事で、園庭環境の設定、振り返りが明確に行われ、共通認識のもとで、環境の再構成の実現に繋がった	A	A		・環境ボードを使って視覚的に遊びを共有する取り組みの継続。保育者の関わりや、子どもの言葉等も入れるなどアップデートした環境ボードを目指す ・子どもの遊びの見取りができているか、保育者の思いが先行していないか、客観的な視点も必要。少人数の自園では、保育者が環境としての役割も大きい。環境会議の中で具体的な子どもの遊びについての話し合いを行う時と、具体的な環境設定、再構成について意見を出し合う時と会議の目的を明確にし、進めていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	⑬ドキュメンテーションやボードを活用し、遊びの変化や育ちを発信し、保護者との信頼関係を築く中で、相互で子どもの発達を支える	・ドキュメンテーションとクラスだよりを配信で隔月で発信。ドキュメンテーションは掲示の形で子どもの遊びの広がりや深まりがコメントと共に記され、目に見えて成長がわかるツールとしての役割を持ち、保護者に伝える事ができた ・日々の姿や家庭での様子は、送迎時や面談で伝えあい、信頼関係を深め相互で個々に必要な援助、育ちを支えていった	A	A		・日々のボードでも基本的にコードモンで配信だが、ウェブ上と紙ベースでは、同じものでも見た目の温かさや受け取り方の違いもあるのではないかと。対面で伝える事の意味は大きいので、送迎時に一言添えたり、個々の様子も丁寧に伝えていく。便利になる部分と、人と人の温かさを感じる部分を意識して活用していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	⑭近隣のこども園や小学校との連携を図り、子どもの育ちや情報交換をしながら、相互理解を深め円滑な接続に繋げていく	・小学校の統合で交流や接続が難しくなったと感じる。その中で、卒園児に手紙を出したり、小学生が年2回来園し、関わりを持つことができた。また、職員同士が行事や公開保育に参加し合い、園児の姿や卒園児の様子を見合う事ができた ・幾つかの園との交流を通し、集団遊びや大勢の友だちとの関わる経験ができるよう目的を明確にして、進めることができた	B	A		・小学校側と相談しながら、接続も見据えた形で校内、行事等の見学や交流の機会を計画していく ・今年度に交流した園、（クラス）と引き続き交流計画を継続していく。友だちとの繋がりが、集団活動の経験を積み重ねていく。交通手段等の制約もある為、Face Timeを活用し、交流の前後の関係づくりもしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	⑮保護者や地域の方へ情報を発信して教育・保育活動への理解を深める	・発表会に地域の合唱団を呼んだり、そば作りを地域の方に教えて頂いたり“清沢”ならではの地域行事や人と関わることを大切にでき、地域に愛されるこども園となっている事が実感できている ・コードモンの導入により、園だより、クラスだより、日々のお知らせは配信、行事の案内などは紙媒体とニュースや目的に合わせて保護者への発信方法が変わったが、保護者も上手く活用してくれ、連携は十分に取れていると感じている	A	A		・地域の方に支援して頂き進めている行事に加え、生活発表会、運動会では、子どもたち主体で、一緒に楽しんでもらう内容を組み込むなど、地域と連携し合うこども園を目指す ・地域の自然、伝承、資源など地域の方から直接話を伺い、清沢をもっと身近に感じられる気持ちがもてるようにしていく ・地域へは引き続き、園だよりを地域の全戸配布を通して園の様子を発信している。家庭、地域の方に園の様子が伝わるよう、その月の園の取り組みや思い、子どもの姿に写真も交え、親しみが持てる内容となるよう作成する